

どうする!このページ
板書どうしよう?
悩む板書例を徹底解説!



日文のWebサイト

日文 🔍



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。



心が動く、その先へ。

日本文教出版

CONTENTS

- 3 巻頭言
板書は究極の授業台本
宮崎県西都市立妻中学校校長 伊東 泰彦
- 4 ④日本の領域をめぐる問題をとらえよう（教科書 p.20 ～p.21）
宮崎県西都市立妻中学校 中武 秀一郎
- 5 ⑥高地に生きる人々
－アンデスを例に－（教科書 p.38 ～p.39）
宮崎県日向市立財光寺中学校 平田 太亮
- 6 第1節 アジア州
－人口や経済発展をテーマに－
節の問いを立てよう（教科書 p.46 ～p.51）
宮崎県宮崎市立赤江東中学校 児玉 泰輔
- 7 第1節 アジア州
－人口や経済発展をテーマに－
アジア州の学習をまとめよう（教科書 p.60 ～p.61）
宮崎県宮崎市立赤江東中学校 児玉 泰輔
- 8 ④災害にそなえるために（教科書 p.152 ～p.153）
宮崎県日向市立財光寺中学校 平田 太亮
- 9 第6節 東北地方
－持続可能な社会づくりをテーマに－
節の問いを立てよう（教科書 p.250 ～p.255）
宮崎県美郷町立美郷南学園 林 明穂
- 10 第6節 東北地方
－持続可能な社会づくりをテーマに－
東北地方の学習をまとめよう（教科書 p.264 ～p.265）
宮崎県美郷町立美郷南学園 林 明穂
- 11 ④構想した内容を整理してまとめよう（教科書 p.290 ～p.291）
宮崎県西都市立妻中学校 中武 秀一郎

巻頭言

板書は究極の 授業台本

宮崎県西都市立妻中学校 校長

伊東 泰彦



板書の意義とは？

ICT活用や一人一台端末の普及等により以前よりも板書への注力が減ったかもしれませんが、黒板がモニター画面やワークシートに変わったとしても、その本質は基本的に同じです。では、教師や生徒にとっての板書の意義とは何でしょうか。

まず教師にとっての板書とは…、極言すれば板書計画は究極の授業台本です。学習内容を網羅的・並列的に説明する授業だと板書内容もそうなります。一方、学習内容を構造化した上でそれを追究させる発問まで工夫した授業であれば、事象間の構造や関係を示す矢印、発問なども板書されるはずです。

では学習者にとってはどうでしょうか。まずは視覚的学習の促進です。問いが板書されていれば常にそれを意識できますし、事象や説明などが構造的に板書されていれば学習内容や思考結果などを可視化することができます。更には、説明内容や追究過程などが学習の記録として板書されていれば、必要なときにそれをふり返ることもできます。他にも、集中機能や伝達機能などによって学習の効果を高めることもできます。

板書の構造化

ただし、社会科の授業であれば最も意識すべきは「学習内容の構造化」ではないでしょうか。問いや学習の配列などを工夫するためには学習内容の構造分析が欠かせませんし、その結果が板書等に反映されれば、学習者の学びを促進することにつながります。特に地理的分野においては「單元ごとの内容のまとまりをどう捉えて授業設計をするか」が、他の分野以上に重要になります。

そこで今回は、「問いの設定や学習のまとめ方が難しいと思われるページ」または「単元を貫く問いの設定と単元のまとめの整合性」とを丁寧に示すべきページ」を紹介したいと考えました。「地域の在り方－宮崎市を例に－」では学習のまとめをどう行すべきかを示していますし、「アジア州」と「東北地方」では、単元を貫く問いと単元のまとめ方との整合性がわかりやすいように例示しています。

また、学習内容を構造的にとらえることで子どもたちの学びがより豊かになると思われるページの板書例も紹介しています。「日本の領域をめぐる問題をとらえよう」「高地に生きる人々」「災害にそなえるために」はその例です。

今回の例示が、教科書に記載されている学習内容の取り扱い方をより深く理解し、若い先生方の授業づくりの参考になれば…と考えております。また、板書に限らず、モニターでのプレゼン提示などにも応用していただければ幸いです。



④日本の領域をめぐる問題をとらえよう

(教科書 p.20 ~ p.21)

宮崎県西都市立妻中学校 中武 秀一郎

発問例

現在、日本が関わる「領域をめぐる問題」とは、どんな問題だろうか？

なぜ、日本固有の領土で「領域をめぐる問題」が起きたのだろうか？

これから、「領域をめぐる問題」は、どのようにして解決に向かうべきだろうか？

単元の学習課題

本時の学習課題

「どんな問題？」

- ・日本の領土が…
- ・他国が占領・干渉

「なぜ起きた？」

※関連!歴史の授業

「どうすべき？」

※関連!公民の授業

世界的に見て、日本の国土にはどんな特徴があるのだろうか？

なぜ、領域をめぐる問題が起きているのだろうか？

【北方領土】

※ロシア連邦が占拠

1855年 日露通好条約
→日本の領土となる

1945年8月
ポツダム宣言受諾後
ソ連軍が侵攻・占拠
→日本人はいない

【竹島】

※韓国が占拠

1905年 島根県に編入

1952年 第二次世界大戦後
韓国が不法に占拠
→日本人はいない

【尖閣諸島】

※中国が領有権を主張

1895年 沖縄県に編入

近年 中国船が侵入
※資源埋蔵の可能性大
→日本が保全する

- ・軍事面：戦略的に重要な場所。歴史の中で軍事力による現状変更があった
- ・経済面：排他的経済水域の拡大。確保。漁業資源、埋蔵資源の獲得
※ロシア・ウクライナ問題、パレスチナ問題にも通じる

余白(板書はしない)

板書のPoint

生徒たちとのやり取りの中での発言をもとに、概要を板書していく。

今後の歴史的分野、公民的分野の学習との関連を意識させる。

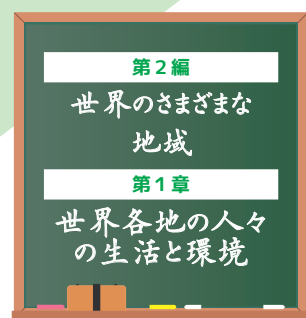
板書には残さない。今後考え続けるべき問題として生徒たちに投げかける。

地理的分野の授業において、日本の領域をめぐる問題を取り上げる際には、北方領土や竹島については、現在はそれぞれロシア連邦と韓国に不法に占拠されているという領土問題が未解決であることを取り扱う。また尖閣諸島については、日本が支配・保全しており領有権の問題は存在しないことを理解させる必要がある。

生徒たちにとって必ずしも身近な問題であるとは言えないこれらの事例について、問題意識をもたせ、「今後どのようにして解決に向かうべきか」を考えさせるためには、「どんな問題か」を捉えさせていく段階で、地図資料に加え、写真資料や Google earth 等から現地の様子を具体的に捉えさせることが有効である。また、「なぜ起きたか」を考える際には歴

史的な背景との関わりを重視し、「どうすべきか」を判断し意見を構成する段階では、公民的分野の学習でさらに考えが深まることを意識させ、三分野の関連を密に図る指導を行うことが重要である。

本単元では、単元を貫く学習課題を「世界的に見て、日本の国土にはどんな特徴があるのだろうか？」と設定し、学習を重ねることとしている。上記の手立てを意識し授業を展開していくことで、我が国の領域の範囲や特色についての理解を深めることができるとともに、日本の領域をめぐる問題について考える活動を通し、ロシアのウクライナ侵攻やパレスチナ問題などの現代社会の諸事象を捉える視点が身につくことも期待される。



⑥高地に生きる人々ーアンデスを例にー

(教科書 p.38 ~ p.39)

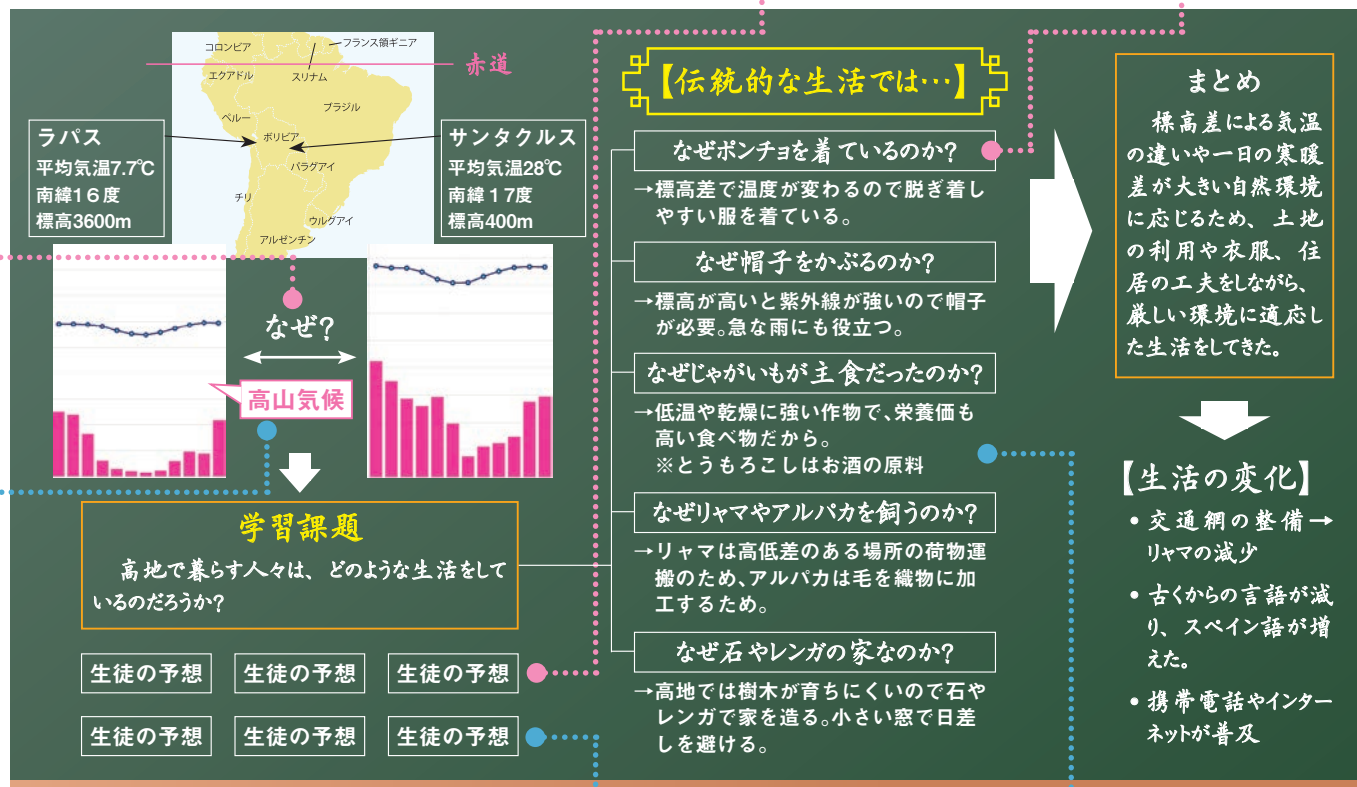
宮崎県日向市立財光寺中学校 平田 太亮

発問例

なぜ緯度は同じなのにラパスとサンタクルスの気候は違うのだろうか？

これまでの地域で学んだことを生かしながら、班で予想してみよう。

自分たちの予想が正しいか、「衣・食・住」の観点から調べていこう。



板書のPoint

学習課題の設定に至るまでの思考の流れを板書で整理していく。

生徒の予想を黒板に残すことで、追究結果との比較ができ、予測力が高まる。

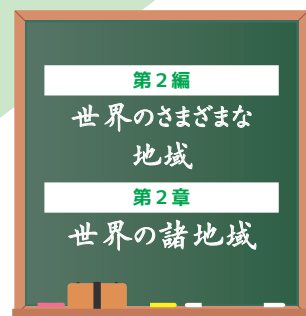
小さな「なぜ疑問」を追究させることで、まとめると見えてくることに迫らせる。

本授業「高地に生きる人々ーアンデスを例にー」は、「世界各地の人々の生活と環境」の単元で最後に取り扱う具体的な事例となる。前時までの5事例の学習で身につけた社会的な見方・考え方を生かしながら、これまでの5地域とは少し異なる気候的な視点を加味した「高地の人々の生活に対する理解」や「学習課題に迫る学び方の習得」を図りたい。

本時の導入では、まず、同緯度に位置するラパスとサンタクルス（ともにボリビア）の雨温図比較を通して高山気候の特色をつかませる。その上で、アンデス高地特有の気候で暮らす人々の生活についての学習課題を設定し、その答えをこれまでの5事例で習得した見方・考え方を活用しながら予想させる。その後、学習課題の予想検証の学習に入らせるが、

その際、学習課題に対する下位の問いを「衣食住」の観点から5つ設定し、その5観点の結果から「学習課題の答え（＝まとめると見えてくること）をまとめる」という学び方を習得させたい。

板書においては、1年次の1学期でもあることから、できるだけ生徒の思考の流れ（学習の流れ）に沿った板書となるようにした。また、学習課題に対する予想とその検証結果の可視化も意識している。なお、具体的資料についてはICTを活用して提示することとし、板書内容をICTで補完させるような授業構成とした。



第1節 アジア州

ー人口や経済発展をテーマにー

節の問いを立てよう

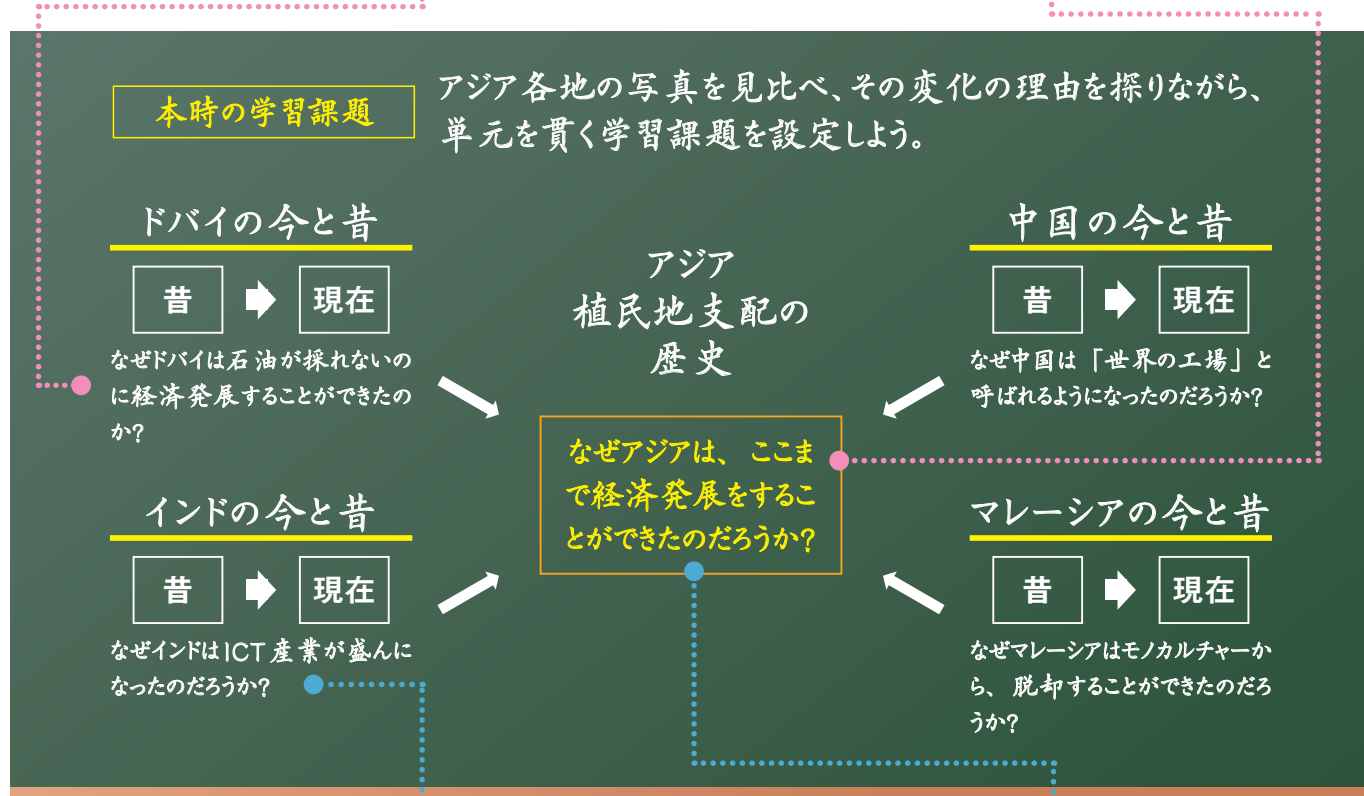
(教科書 p.46 ～ p.51)

宮崎県宮崎市立赤江東中学校 兒玉 泰輔

発問例

「東アジア」「東南アジア」「南アジア」「西アジア」それぞれの地域の、昔と現在の写真を比べながら、問いを立てていこう。

4地域で立てた問いをもとに、単元を貫く学習課題を設定しよう。例) アジア各地は植民地支配をされていたのに、なぜここまでの経済発展ができたのかな?



板書のPoint

写真比較によって「発展」を可視化しながら、これから探究していく4つの内容ごとの問いを立てさせる。

単元を貫く問いは、生徒自身の思考を大切にしながら設定し、板書の中心に据えることで常に生徒に意識させていく。

本単元では、アジア州を「経済発展」というテーマから追究させていく。「東アジア」「東南アジア」「南アジア」「西アジア」それぞれの代表的な国に着目させ、「中国が世界の工場と呼ばれるまでに成長したこと」「ドバイは石油産出量が少ないにもかかわらず発展したこと」「インドがICT産業で世界を牽引していること」「マレーシアがモノカルチャー経済から脱却したこと」に関する各問いを追究させながら、単元全体を貫く問い「なぜアジアは経済発展を遂げることができたのだろうか?」に迫らせたい。

板書で重視したいのは「授業と思考の構造化」。知識を並べるのではなく、問いと答えの流れを板書によって可視化していくことで、学びの筋道を明確にすることを目指したい。板

書を、授業の展開を整理するだけでなく、生徒の思考を促し学習の見通しをもたせるための重要な手段として活用したい。

単元の導入にあたる本時では、前段として4つの地域における過去と現在の写真比較を通して発展の印象を視覚的に共有し、生徒の興味を引き出しながら地域ごとの探究に関する問いを立てさせたい。そのうえで単元全体を貫く包括的な問いを立てさせるが、これらを構造的に板書することにより、生徒は問いへの見通しをもったり単元全体の学習に向けた思考の枠組みを共有したりすることが可能となる。いわば、板書が「問いを中心に据えた思考の地図」として機能していくように工夫していきたい。



第1節 アジア州

ー人口や経済発展をテーマにー

アジア州の学習をまとめよう (教科書 p.60 ～ p.61)

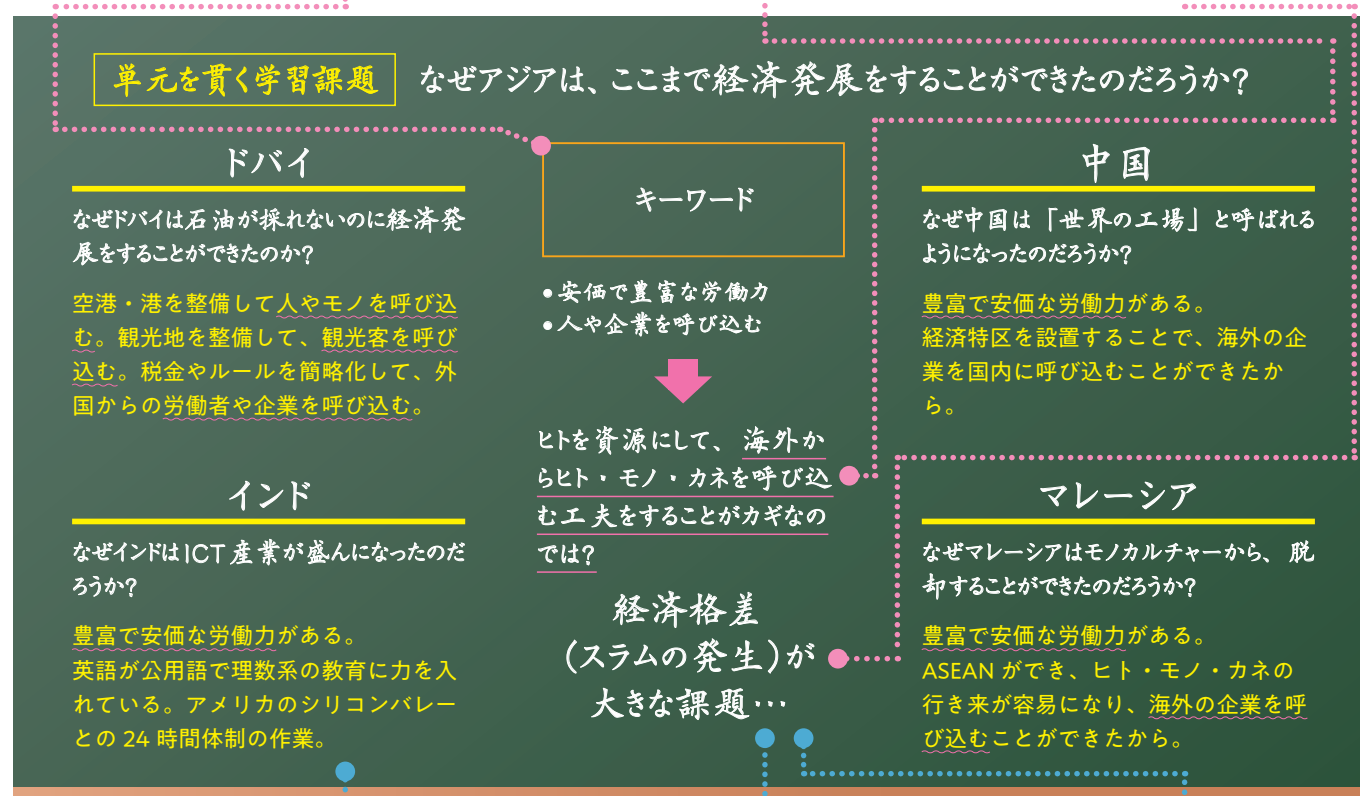
宮崎県宮崎市立赤江東中学校 兒玉 泰輔

発問例

共通する経済発展のキーワードは何だろうか?

発展途上国に対してアドバイスをするとしたら、どのようなアドバイスをします?

課題はないのだろうか?



板書のPoint

地域ごとの問いに対するまとめも文章化して板書し、可視化する。

地域ごとのまとめから共通点を見出して概念化し、経済発展の要因をつかませていく。

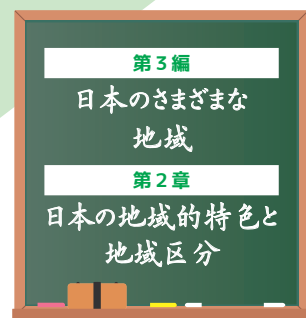
「経済発展による経済格差を是正する」という視点で授業を発展させてもよい。

本授業はアジア州の最終段階の授業であり、板書も各問いに対するまとめを中心に構成している。

生徒たちは前時までの探究学習において、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアの各地域に対する「なぜ?」という問いに向き合ってきたが、本時の板書ではその成果を可視化し、そこから各地域共通のキーワードを抽出しながら単元を貫く問いに対するまとめを構築する流れで授業を構成した。例えばドバイを扱った授業では、「ヨーロッパとアジアを結ぶ中継地点としての地理的条件」「観光地としての都市開発」「規制緩和による外国企業や外国人労働者の受け入れ」といった3つの資料を読み解き、「なぜ石油が採れないのに経済発展することができたのか?」という問いに対するまと

めを文章化させる。他の地域でも同様の探究活動を行い、各まとめを文章化して本時の板書に反映させたい。そのうえで本時では「安価・豊富な労働力」「外国人や外国企業を呼び込む」といった共通のキーワードを抽出し、それらをもとに「アジアの経済発展の要因」に対する仮説を立て、再度文章化する活動を行わせたい。

なお本単元は、授業者が学習者に問いを投げ続けていくソクラテスメソッド型ではなく、資料とワークシートを活用して生徒自身が答えを導き出すスタイルでの学びを想定している。問いと資料、ゴールを板書やワークシートに明示することにより、生徒自身による概念探究型の学びを展開させたい。



④災害にそなえるために (教科書 p.152 ～ p.153)

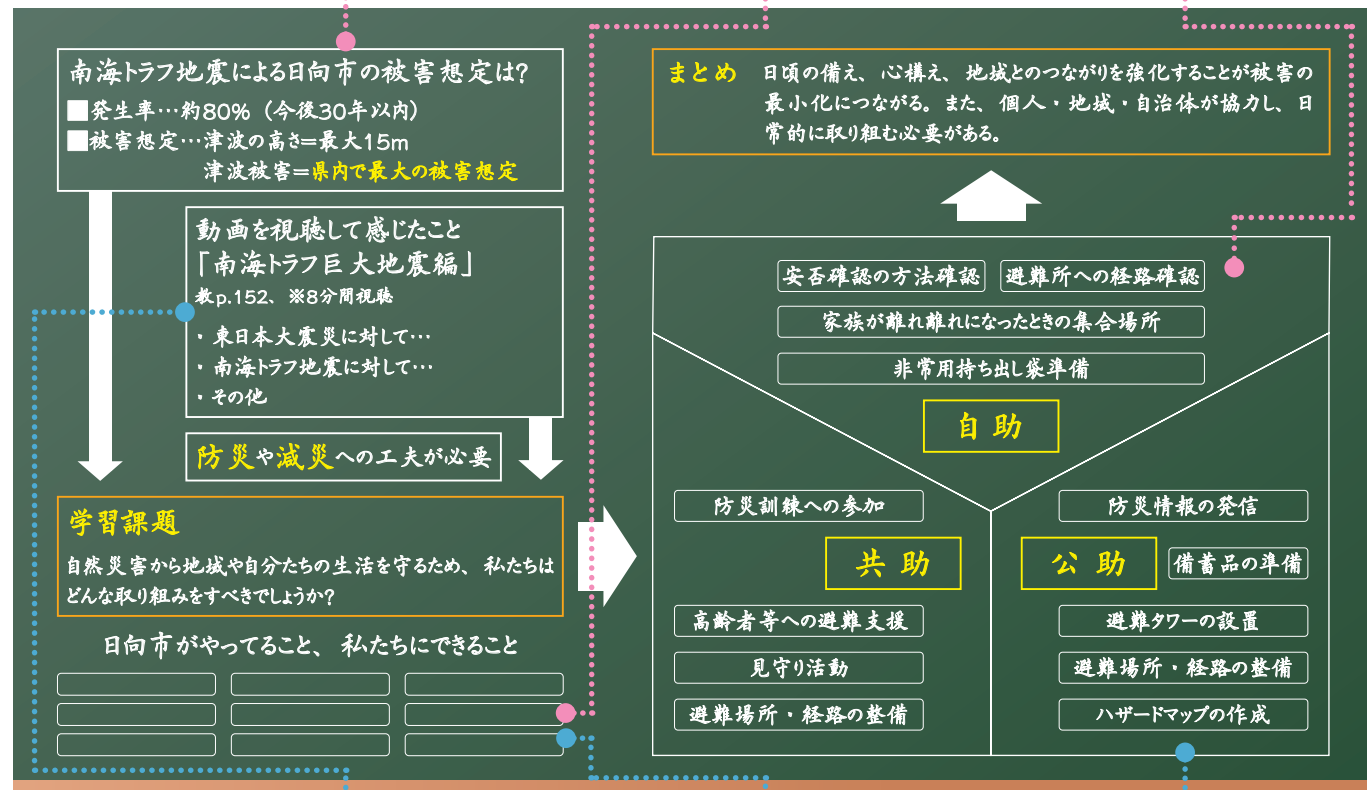
宮崎県日向市立財光寺中学校 平田 太亮

発問例

南海トラフ地震ではどれくらいの被害が想定されているでしょうか？

日向市ではどのような取り組みをすべきと考えますか？

Yチャートを使って、3つの視点から今後取り組むべきことを整理しましょう。



板書のPoint

南海トラフ地震の深刻さや日向市の課題を知ること、当事者意識を高める。

既存の知識や資料などをもとに、まずは自由に取り組みをあげていく。

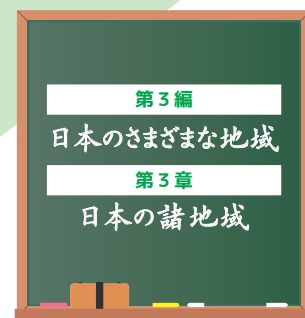
「自助」「共助」「公助」の3視点から取り組みを整理する。

宮崎県日向市は、県内で最も南海トラフ地震による被害想定が大きい場所である。特に津波による被害が深刻で、県内最大の死者数が出る想定である。生徒たちは、将来においてこの自然災害を体験する可能性もあるため、高い当事者意識をもって真剣に今後の防災対策を考える必要がある。

本時の学習においては、居住地・日向市の被害想定が甚大であることを知るとともに、教科書からリンクできる動画視聴により、まずは災害に対する当事者意識を高めさせたい。そのうえで当事者意識に基づく学習課題を設定し、小学校や総合的な学習の時間で学んだ既有知識や資料などを使って、自分たちで話し合いながら取り組むべきことをアトランダムに出させていく。次にそれらの取り組みを、思考ツール（Yチャー

ト）を使いながら「自助」「共助」「公助」の3視点から整理させ、防災対策の基本的な枠組みを理解させたい。特に、生徒一人ひとりにできる「自助」については深掘りさせながら「今後私たちがやるべき取り組み」を考えさせたい。

板書においては、生徒たちの学習や思考の流れに沿った板書を意識するとともに、Yチャートを活用することで防災の取り組みを3視点から整理できるように工夫した。できれば必要な写真などを掲示することで、身近な居住地域における防災の必要性を自覚できるような工夫も行いたい。



第6節 東北地方 ー持続可能な社会づくりをテーマにー 節の問いを立てよう (教科書 p.250 ～ p.255)

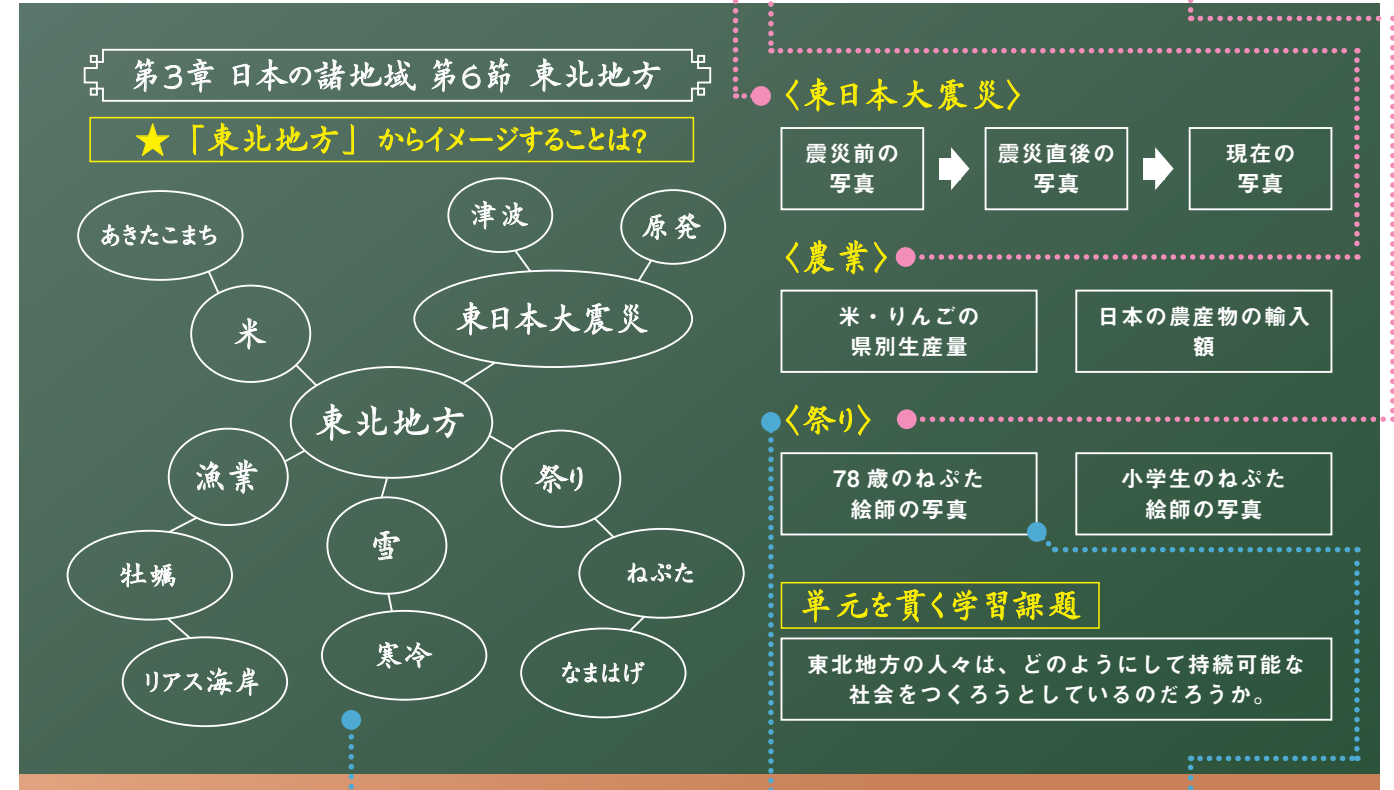
宮崎県美郷町立美郷南学園 林 明穂

発問例

震災前の町に戻すだけでなく、現在のようないきいきとしたのはどんな思いからなのだろうか？

外国産の農産物に押されているが、日本を支える東北地方の農業を持続するにはどうしたらよいのだろうか？

高齢化が進む中で、伝統的な祭りを継承していくにはどうしたらよいのだろうか？



板書のPoint

東北地方に対するイメージを生徒らに自由に書かせる時間を確保する。

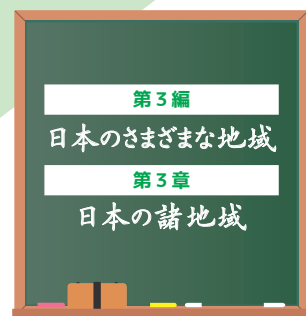
「持続可能な社会」という視点を導くため、左のイメージマップ内の記述をもとに3視点に。

東北地方における現状や課題を視覚的に理解しやすくするために、写真やグラフの資料を提示する。

日本の諸地域をはじめとする地理的分野の授業づくりで頭を悩ませることの一つが、「自分たちの居住地以外の地域について、いかに自分ごととして考えられるような課題を設定するか」である。そのため、単元を貫く学習課題の設定においては、子どもたちがもっているその地域へのイメージを指導者が把握したうえで、必要に応じて子どもたちの視野や興味関心を広げることができるよう資料を提示していくことがポイントとなる。

今回の東北地方については、「持続可能な社会づくり」を中核とした単元構成とした。本時は、単元を貫く学習課題の設定を行う授業である。子どもたちが描くイメージマップから、「東日本大震災からの復興」「農業をとりまく環境の変化」「伝

統文化の維持と革新」という3視点につながるものを抽出しながら、「持続可能な社会」というテーマに導いていけるようにする。この3視点に基づき、現状と課題に着目させていきながら、「地震が起きた場所」「農業が盛んな場所」「祭りが多くある場所」といった断片的な知識を手がかりに、単元の学習を通して様々な課題を乗り越える取り組みに対する理解を深めさせ、まとめると見えてくる共通項としての「持続可能な社会づくり」という概念的な知識を獲得させていきたい。

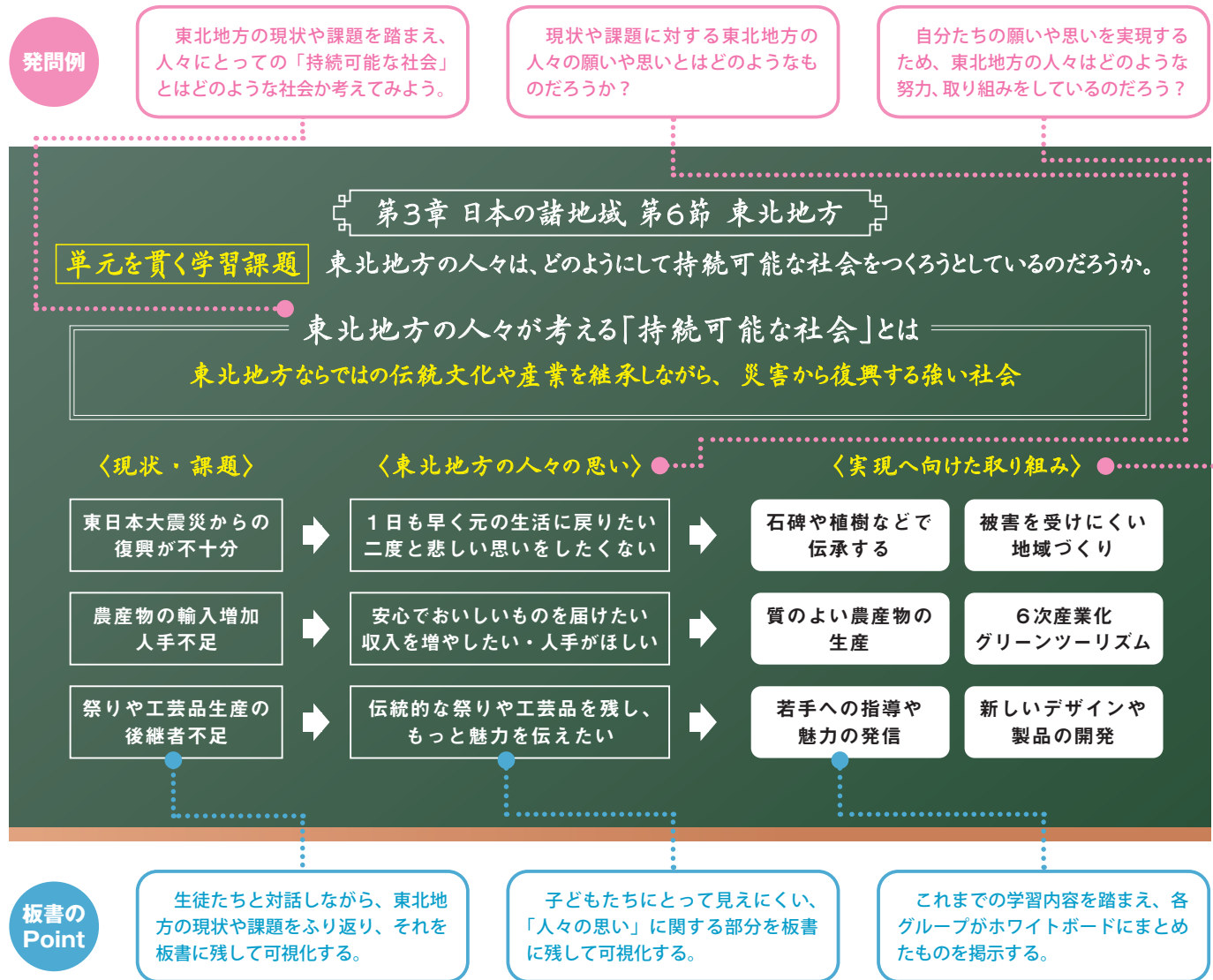


第6節 東北地方

ー持続可能な社会づくりをテーマにー

東北地方の学習をまとめよう(教科書 p.264～p.265)

宮崎県美郷町立美郷南学園 林 明穂

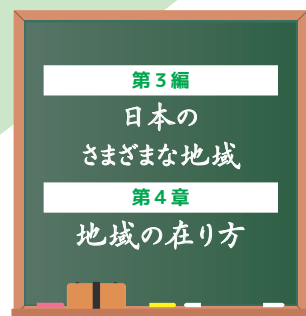


本単元では、「東北地方の人々は、どのようにして持続可能な社会をつくらうとしているのだろうか。」という学習課題を設定し、「東日本大震災」「農業」「伝統文化」という3視点から現状と課題を分析させ、復興や継承から見えてくる「持続可能な社会づくり」への取り組みを追究させた。

単元のまとめにあたる本時では、単元の学習で見えてきた「東北地方の人々が考える持続可能な社会」とはどんな社会なのかを十分に考えさせたい。大きな災害を乗り越えてきた東北地方の人々が考える「持続可能な社会」は、一般の人々が考えるものとは異なるはずである。直面してきた喫緊の課題を乗り越え、実際にはどのように持続可能な社会を作ってきたのかを整理させるため、人々の思いを板書に残し、可視

化できるよう工夫した。それらを段階的・構造的に板書していくことにより、子どもたちの学びが整理され、追究結果を自分でまとめる活動につながっていくと考える。

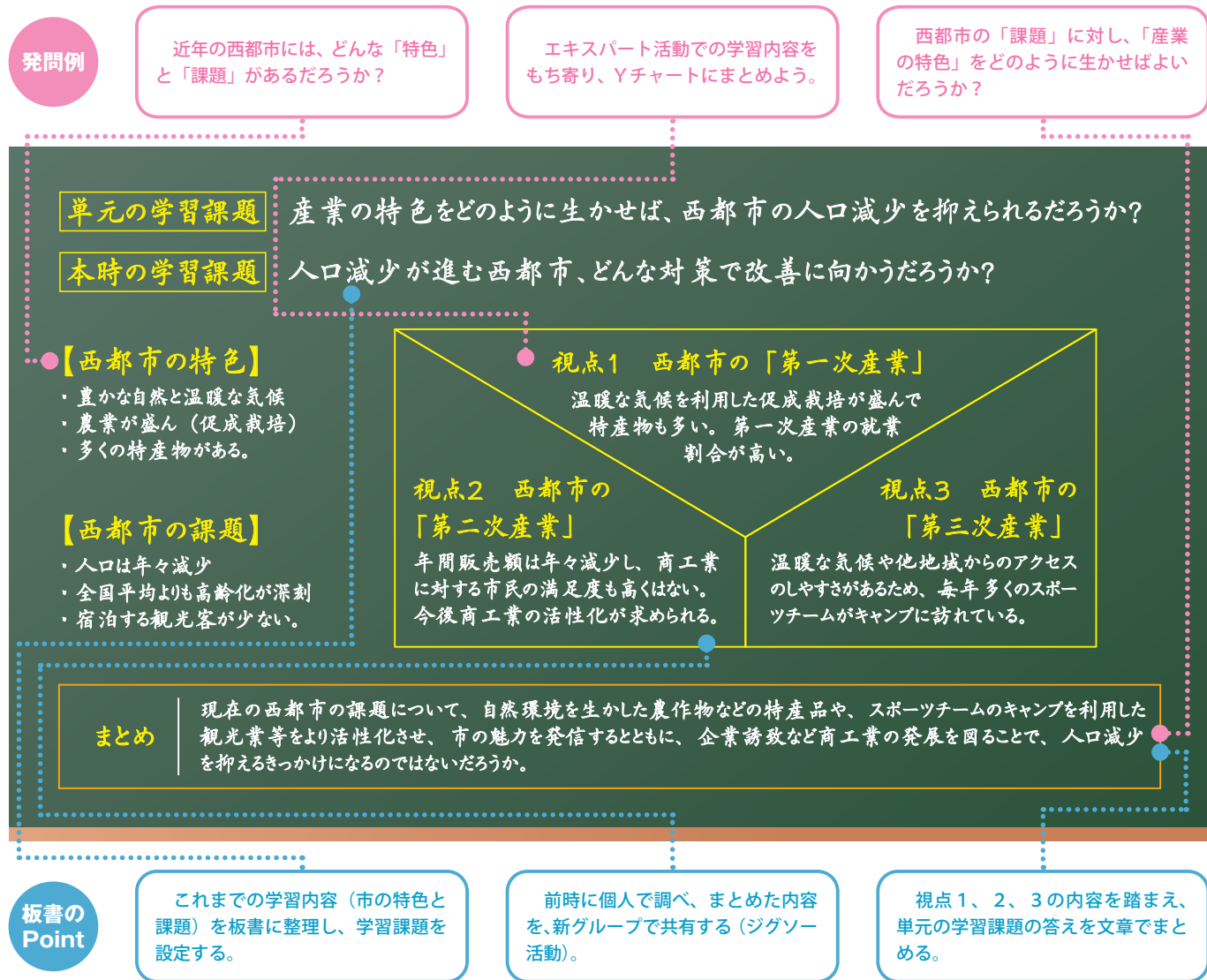
今回は、東北地方を題材に「持続可能な社会づくり」について考えさせているが、今後自分自身が解決すべき(地域の)課題に直面したときなどにも転用できるような、汎用性のある学び方や考え方を習得させていきたい。



④構想した内容を整理してまとめよう

(教科書 p.290～p.291)

宮崎県西都市立妻中学校 中武 秀一郎



子どもたちにとって身近な地域を取り扱う「地域の在り方」の学習においては、これまでの学習で身につけた地理的な見方・考え方を生かすとともに、資料等から読み取ることのできる情報に自分の解釈を加えて説明したり、意見交換したりする活動を十分に取り入れ、主体的・協働的に学習させることが重要である。

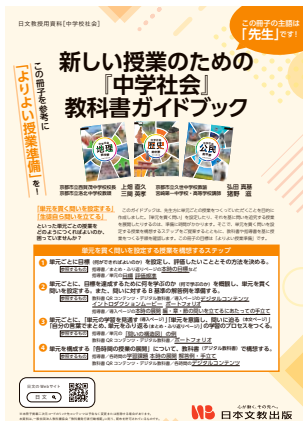
そこで本単元では、子どもたち自身の力で課題探究に取り組むことができるよう、「ジグソー学習」を取り入れた授業を構成している。第1時は「西都市の特色と課題を把握する時間」、第2時、第3時は「特色と課題についての理解を深める時間」とし、学級を三つのグループ(視点)に分けてのエキスパート活動を行う。第4時(本時)は「よりよくするた

めの対策を考える時間」と位置づけ、エキスパート活動でまとめた内容を、新しいグループで共有するジグソー活動を行い、学びを伝え合いながら学習を深めていくことを想定している。

西都市を主題とした「地域の在り方」の学習においてジグソー学習を取り入れることで、子どもたちが、自らが担当する視点(第一次、第二次、第三次産業)について深く考え、他の学習者と学びを伝え合いながら学習を深めていくことができる。単元のまとめとなる第4時の板書については、第1時からまとめまでの流れと、ジグソー学習での習熟度の高まりを可視化することができるよう、思考ツール(Yチャート)を用いている。

日本文教出版 各種資料のご案内

新しい授業のための 『中学社会』 教科書ガイドブック



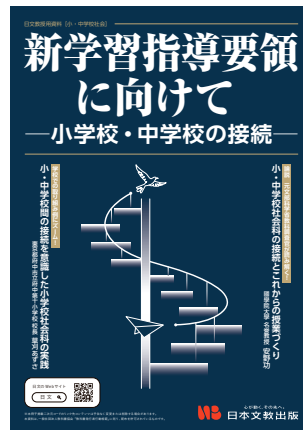
日文教科書の使い方がわかる！
授業の準備に役に立つ一冊！

新学習指導要領 に向けて —自由進度学習—



新学習指導要領で注目されているキーワードについて、
元文部科学省教科調査官が読み解く！

新学習指導要領 に向けて —小学校・中学校の接続—



教科書ガイド



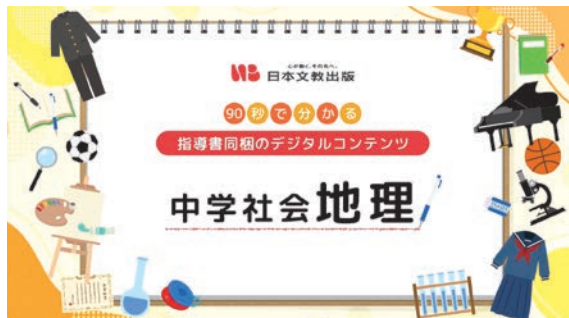
自由進度学習



小・中の接続

中学社会・地理的分野 教師用指導書

教師用指導書には、授業に役立つ解説
や豊富な参考資料などが掲載されてい
ます。紹介動画では、指導書同梱のデ
ジタルコンテンツの具体的な内容を確
認することができます。



日文 Instagram 開設！

日文公式
Instagram
はじめました

主な配信内容

- ① お役立ち情報を発信
授業の実践事例や、Q&A、デジタル
コンテンツの紹介、指導書の活用方
法など、授業に役立つ情報を発信！
- ② 更新情報を発信
日文Webサイトの更新情報を発信！
最新資料の見どころや活用方法もお
届けします。



アカウントはこちら！



二次元コードをスキャン
もしくは、
Instagramで
「@nichibun_g」と検索！



授業で使える！板書の書き方 —地理編—

日文教授用資料〔中学校社会（地理）〕
令和8年（2026年）1月30日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261
FAX：06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33788

日本文教出版株式会社 <https://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL：06-6692-1261 FAX：06-6606-5171

東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL：03-3389-4611 FAX：03-3389-4618

九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL：092-531-7696 FAX：092-521-3938

東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL：052-979-7260 FAX：052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL：011-764-1201 FAX：011-764-0690